

顎変形症

「顎変形症」とは、上顎や下顎が伸びすぎていたり、顎が小さい、顎全体が横に曲がっていたりするなどの原因で、噛み合わせがずれて、顔や口もとが変形している病気です。この病気は一般的な歯列矯正では改善が難しく、顎矯正手術を行うことで改善します。当院では和歌山市内の矯正専門医と連携して治療を行っております。この治療をご希望の方は、矯正歯科医院で診察を受けてから、紹介状を持って当医療センターを受診してください。

顎矯正手術とは

下顎あるいは上顎と下顎の位置関係を変える手術です。

入院して全身麻酔で行います。いくつか手術方法がありますが、すべての手術は口の中から行います。皮膚を切ることはありません。

顎変形症の治療を行うには

顎変形症は噛み合わせの異常という病気ですので、保険医療が適応されます。

保険が適応されるには、保険診療の指定がある矯正歯科で顎変形症の診断を受ける必要があります。

顎変形症治療は必ず矯正歯科医師と口腔外科医師が協同して治療を進めていきます。

このように歯列矯正と外科手術で噛み合わせを治療する方法を外科的矯正治療と呼びます。

顎矯正治療の流れ

術前矯正治療：

顎矯正手術を受ける前に術前矯正が必要です。術後にしっかり噛めるように、がたがたの歯列を整えたり、上下の歯列の平面を平坦化したりします。

術前矯正は平均1年半から2年程度要します。術前矯正を行い、手術可能な段階に近づくと、口腔外科で手術の準備を行います。

入院手術準備～入院：

手術方法の決定や手術計画の説明、手術リスクの説明、術前検査（レントゲン撮影、CT撮影など）や、持病や既往歴や常用薬などの確認を行います。

また、手術予定日の約1ヵ月前に術前の全身検査（血液検査、胸部レントゲン撮影、心電図など）と入院申し込みを行います。

入院1日～3日前にPCR検査を行います。

手術前日に入院し、入院期間は約1週間です。

術後、矯正用のゴムで上下顎の間を牽引し、口が動かないように固定します（顎間ゴム牽引）。基本的に24時間、顎間ゴムを装着していただきますが、自分でつけ外しできるため食事や歯磨きの時は外すことができます。

術後矯正治療：

術後しばらくは上下顎を顎間ゴム牽引します。約 1 ヶ月は強く顎間ゴム牽引をおこないますので、顎は開かない状態です。徐々に緩くなっていき、3 ヶ月から 9 ヶ月程度でゴムが必要なくなります。

下顎の手術で骨接合用のチタンプレートを使用した場合、術後 1 年前後にチタンプレートの除去手術（全身麻酔）を行います。

保定：

術後矯正治療が終わりに近づき、口の中の矯正装置が徐々に減っていきます。歯並びが戻らないように保定装置というマウスピースやワイヤーを歯に固定する装置を取り付けます。

保定装置が外れると矯正は終了となります。

外科的矯正治療を考えている方へ

外科的矯正治療は噛み合わせを改善する治療です。美容・整形を目的とした手術ではありません（医療保険が適応されます）。そのため噛み合わせの不良がない美容目的の方は当院では手術ができません。

手術は口の中から行いますが、上顎や下顎の骨を動かし、プレートで固定していきます。術後必ず顔の形が変わります。上顎では頬から下の輪郭や鼻周囲の形、上唇の形やボリュームが変わります。下顎では下顎の形、いわゆるエラの形、おとがい（唇の下方）の形や下唇の厚みなどが変わります。

口の中には大きな傷ができますので傷跡や瘢痕が残り突っ張りや引きつれ感、感覚の違和感や痺れが残ります。顎の関節の症状の発現や顔の動きや表情が術前と変わることもあります。

手術の予定がある患者様へ

手術前にまでに治療を受けてください。

・虫歯や歯周病の治療、智歯（親知らず）など、治療上の支障となる埋伏歯等の抜歯（手術 6 ヶ月前まで）

・顎関節障害の治療

・睡眠時無呼吸があればその検査（耳鼻咽喉科にて）、必要に応じて治療

・全身的疾患のある場合は、その治療と主治医の手術許可を得てください：

もし全身的な既往症（内科的疾患）があれば、それが全身麻酔下で行われる顎矯正手術の妨げとならないか、主治医の先生に相談することが必要です。常用薬の休薬や変更が必要になる場合があります。

・喫煙は禁止

入院・顎矯正手術が決まっている患者様へ

- ・入院3日程前に、当院でコロナウイルスのPCR検査を行います。

入院時に必要なもの

- ・大きめの鏡（角度調整ができ自立するタイプが良）
- ・コンタクトレンズや眼鏡（視力の悪い方）
- ・フェイシャルバンド（当院売店で販売）
- ・タオル類やアメニティは入院申し込み時に説明します。

手術当日

- ・顔に乳液などの基礎化粧品は塗らない
- ・術日の朝、欠食ですが歯磨きを行う
- ・髪の毛が長い方は、後ろで左右2つに結ぶ

術後

- ・顎間ゴム牽引を自分で着け外ししてもらいます
- ・食事は全く噛まないもの、流動食など

術後の食事について

- ・術後～2週間 噛まずに飲み込めるもの
 - ・術後2～4週間 簡単にお箸で切れるもの。同程度の堅さのもの
 - ・術後4～6週間 簡単に噛み切れるもの。柔らかめの普通の食事。繊維が残るような肉や野菜は避ける
 - ・6週間～ 固い肉など、引きちぎったりするもの以外は普通の食事
- ※チタン製の方が早い時期に普通の食事を食べられます。

日本赤十字社和歌山医療センター
歯科口腔外科部
2021年6月